2023年10月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年３月14日

上場会社名　株式会社ＣＩＮＣ　上場取引所　東
コード番号　4378　URL　https://www.cinc-j.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）石松　友典
問合せ先責任者　（役職名）取締役経営管理本部長（氏名）雨越　仁　（TEL）03-6822-3601
四半期報告書提出予定日　2023年３月14日　配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：有
四半期決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2023年10月期第１四半期の業績（2022年11月１日～2023年１月31日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第１四半期	505	24.8	67	5.6	67	6.0	44	4.9
2022年10月期第１四半期	405	―	64	―	63	―	42	―

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
2023年10月期第１四半期	13.34	12.49
2022年10月期第１四半期	12.86	11.90

（注）2022年10月期第１四半期については、2021年10月期第１四半期に財務諸表を作成していないため、2022年10月期第１四半期の前年同四半期増減率を記載しておりません。

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第１四半期	1,956	1,543	78.9
2022年10月期	2,025	1,497	73.9

（参考）　自己資本　2023年10月期第１四半期　1,542百万円　2022年10月期　1,497百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
2022年10月期	―	0.00	―	0.00	0.00
2023年10月期	―				
2023年10月期（予想）		0.00	―	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2023年10月期の業績予想（2022年11月１日～2023年10月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,227	23.4	104	△64.4	103	△64.6	66	△66.9	19.82

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年10月期１Ｑ	3,366,010株	2022年10月期	3,328,000株
②　期末自己株式数	2023年10月期１Ｑ	39株	2022年10月期	－株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2023年10月期１Ｑ	3,364,658株	2022年10月期１Ｑ	3,328,000株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付３ページ「１．当四半期決算に関する定性的情報（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 6
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 7
（継続企業の前提に関する注記） …… 7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 7
（セグメント情報等） …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の制限が緩和される一方、新たな変異株による感染拡大が加速し、さらにはウクライナ情勢の長期化や物価の高騰、各国における金融政策の引き締めなど、先行きに対する不透明感は強まりつつあります。

一方で、当社が展開するサービスを取り巻く環境は、インターネット、スマートフォン、SNSの普及によりデジタルチャネルでの購買が一般化してきたこと、新型コロナウイルス感染症拡大によりオフラインでのマーケティング活動が制限されたこと等により、企業のマーケティング活動のデジタルシフトが続いており、当社が事業を展開するDXコンサルティングや「Keywordmap」シリーズ等のデジタルマーケティングを支援するサービスへの需要は引続き拡大傾向にあり、堅調な成長を続けております。

このような経営環境のもと、当第１四半期累計期間の売上高は505,822千円(前年同四半期比24.8％増)となりました。利益面につきましては、前期に積極的に人材投資を行ったため人件費が増加したものの、売上高が堅調に推移したこと、人材市場の競争激化により採用数が減少し採用費の負担が減少したことにより、営業利益は67,809千円(前年同四半期比5.6％増)、経常利益は67,505千円(前年同四半期比6.0％増)、四半期純利益は44,891千円(前年同四半期比4.9％増)となりました。

事業ごとの売上高及びセグメント利益は以下の通りになります。

（ソリューション事業）

ソリューション事業は、「Keywordmap」については、営業部員の人材育成が計画通りに進捗しなかったこと、新規の顧客層がハイリテラシー層からライトユーザー層に変化したことで顧客のニーズが分析の精度から使いやすさ・わかりやすさに変化したことにより当社の競争優位性が低下したため、新規案件の獲得が鈍化しました。また、カスタマーサクセスチームに関しても人材育成が計画通りに進捗しておらず、十分なサポート・サクセス支援品質を提供できなかったことにより、解約率が上昇しました。

「Keywordmap for SNS」についても、営業部員の人材育成が計画通りに進捗しなかったことにより、新規案件の獲得が鈍化しました。また、カスタマーサクセスチームに関しても人材育成が計画通りに進捗しておらず、十分なサポート・サクセス支援品質を提供できなかったこと、「Keywordmap for SNS」を活用したSNSマーケティングは成果創出まで時間がかかるため、短期的な成果を求めるクライアントのニーズと一致しなかったことによる解約が発生したことにより、解約率が上昇しました。今後、営業人員の教育プログラムの見直し及び顧客ニーズに合わせた機能開発を行ってまいります。

また、「Keywordmap for SNS」にInstagram分析機能を実装し、リリースしました。

その結果、当セグメントの売上高は243,604千円(前年同四半期比21.8％増)となったものの、円安によるサーバー費の増加、営業人員増による人件費の増加などにより、セグメント利益は38,855千円(前年同四半期比17.6％減)となりました。

（アナリティクス事業）

アナリティクス事業は、ウェビナーやSNSを活用したマーケティング施策が順調に推移したことにより、新規獲得案件が増加しました。また、コンサルタントやデータアナリストの人員増加や育成体制の強化が進んだことや、YouTube、TikTok、Twitter、LINE等の新たなプラットフォームのコンサルティングサービス提供の取組み、社外のマーケティングのプロ人材を活用して顧客のマーケティング活動を支援するエキスパートソーシング事業への取組みなどの新規サービスの受注が順調に進捗し、契約件数、月額顧客単価ともに増加しました。

その結果、当セグメントの売上高は267,562千円(前年同四半期比28.0％増)、セグメント利益は28,954千円(前年同四半期比69.8％増)となりました。

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第１四半期会計期間末の資産につきましては、前事業年度末に比べて69,399千円減少し、1,956,190千円となりました。これは主に法人税の納付による現金及び預金の減少（前事業年度末比85,133千円の減少）と、固定資産のその他に含まれる繰延税金資産の減少（前事業年度末比9,963千円の減少）、流動資産のその他に含まれる前払費用の減少（前事業年度末比7,268千円の減少）、事業拡大による受取手形及び売掛金の増加（前事業年度末比14,706千円の増加）によるものであります。

（負債）

当第１四半期会計期間末の負債につきましては、前事業年度末に比べて114,454千円減少し、413,186千円となりました。これは主に、未払法人税等の減少（前事業年度末比53,166千円の減少）、賞与引当金の減少（前事業年度末比20,842千円の減少）、借入金の減少（前事業年度末比20,003千円の減少）、流動負債のその他に含まれる前受金の減少（前事業年度末比13,456千円の減少）によるものであります。

（純資産）

当第１四半期会計期間末の純資産につきましては、前事業年度末に比べて45,054千円増加し、1,543,003千円となりました。これは主に、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加（前事業年度末比44,891千円の増加）と、ストックオプションの行使による資本金及び資本準備金の増加（前事業年度比219千円の増加）によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年10月期の業績予想については、2022年12月９日の「2022年10月期　決算短信」で公表いたしました通期の予想数値に変更はございません。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第１四半期会計期間 (2023年１月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,523,509	1,438,375
受取手形及び売掛金	187,967	202,673
その他	62,844	59,343
貸倒引当金	△481	△521
流動資産合計	1,773,839	1,699,871
固定資産		
有形固定資産	5,260	4,716
無形固定資産	85,085	100,161
投資その他の資産		
その他	162,089	152,125
貸倒引当金	△685	△685
投資その他の資産合計	161,403	151,440
固定資産合計	251,750	256,318
資産合計	2,025,589	1,956,190

（単位：千円）

	前事業年度 (2022年10月31日)	当第１四半期会計期間 (2023年１月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	53,422	55,346
１年内返済予定の長期借入金	80,012	80,012
未払法人税等	70,086	16,920
賞与引当金	42,314	21,471
その他	210,197	187,830
流動負債合計	456,032	361,580
固定負債		
長期借入金	71,609	51,606
固定負債合計	71,609	51,606
負債合計	527,641	413,186
純資産の部		
株主資本		
資本金	475,601	475,711
資本剰余金	465,601	465,711
利益剰余金	556,510	601,402
自己株式	—	△55
株主資本合計	1,497,713	1,542,769
新株予約権	234	233
純資産合計	1,497,948	1,543,003
負債純資産合計	2,025,589	1,956,190

（２）四半期損益計算書

第１四半期累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自 2021年11月１日 至 2022年１月31日）	当第１四半期累計期間 （自 2022年11月１日 至 2023年１月31日）
売上高	405,419	505,822
売上原価	107,649	149,548
売上総利益	297,769	356,273
販売費及び一般管理費	233,567	288,463
営業利益	64,201	67,809
営業外収益		
その他	4	4
営業外収益合計	4	4
営業外費用		
支払利息	494	308
営業外費用合計	494	308
経常利益	63,711	67,505
特別利益		
新株予約権戻入益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産売却損	73	—
特別損失合計	73	—
税引前四半期純利益	63,638	67,505
法人税、住民税及び事業税	9,446	12,650
法人税等調整額	11,392	9,963
法人税等合計	20,839	22,613
四半期純利益	42,799	44,891

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前第１四半期累計期間（自　2021年11月１日　至　2022年1月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期損益計算書計上額（注）２
	ソリューション事業	アナリティクス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	196,405	209,013	405,419	—	405,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	3,622	—	3,622	△3,622	—
計	200,027	209,013	409,041	△3,622	405,419
セグメント利益	47,145	17,055	64,201	—	64,201

（注）１．「調整額」の区分は、セグメント間取引消去3,622千円を含んでおります。
２．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第１四半期累計期間（自　2022年11月１日　至　2023年1月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注）１	四半期損益計算書計上額（注）２
	ソリューション事業	アナリティクス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	238,709	267,112	505,822	—	505,822
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,894	450	5,344	△5,344	—
計	243,604	267,562	511,166	△5,344	505,822
セグメント利益	38,855	28,954	67,809	—	67,809

（注）１．「調整額」の区分は、セグメント間取引消去5,344千円を含んでおります。
２．セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。